



積極的な成長投資により、 中長期的な企業価値及び株主価値の 向上を目指します

上席執行役員
グループ経理財務統轄部長
伊藤 洋

「資本政策と株主還元」

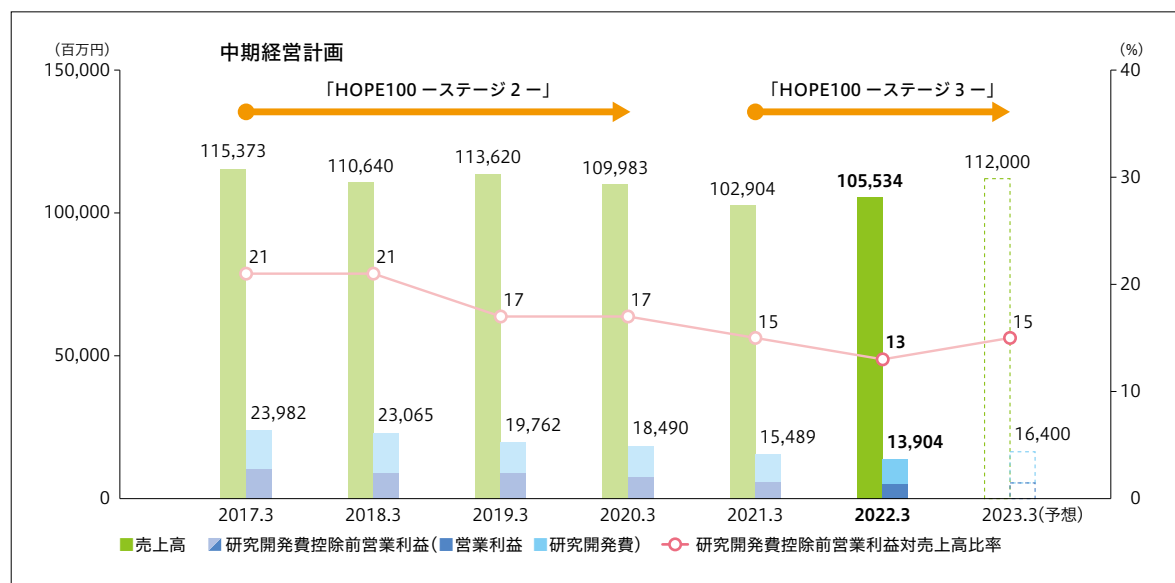
- 健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ります
- 株主還元は、DOE(株主資本配当率)を勘案して、安定した配当を目指します

当社グループの財務担当として実行すべき役割は、財務体質の健全性を維持しつつ将来への投資を積極的に実行し、企業価値及び株主価値の持続的な向上を実現することであると認識しています。

中期経営計画「HOPE100－ステージ3－」における財務戦略の基本的な考え方は、①健全な財務基盤を維持しつつ成長投資と株主還元を通じて資本効率の向上を図る、②株主還元はDOEを勘案して安定した配当を目指す、というものです。毎年の薬価改定は当社グループの利益

水準に大変厳しい影響を与えています。このような環境下で長期的な企業価値の向上を図るためには、利益の源泉となる新薬の継続的な開発・上市が何よりも重要です。そのため自社の研究開発及び外部からの導入品の獲得に従来以上に積極的に投資し、開発パイプラインの拡充を図ります。あわせて収益性の高い新薬群の売上拡大を図るとともに、製造設備への大規模な投資を行い、必要な生産能力を高めると同時にコスト効率を改善し、売上、利益の向上を図っていきます。

売上高及び研究開発費控除前営業利益



【売上高及び研究開発費控除前営業利益】

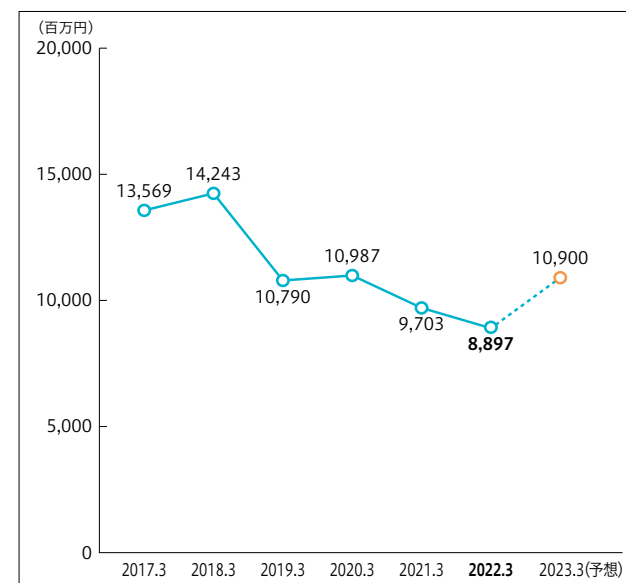
毎年の薬価改定に加えて新型コロナウイルス感染症拡大等により、売上高及び営業利益に大きな影響を受けていますが、2023年3月期は新薬群のラインアップが拡充したこと、主力製品において限定出荷解除が見込まれるため、増収・増益を予想しています。また研究開発費控除前営業利益は16,400百万円、対売上高で約15%を予想しています。

当中期経営計画では、成果目標に持続成長の実現を掲げており、「売上高」年平均5%以上の成長率を達成すること、対売上高で20%以上の「研究開発費控除前の営業利益(営業利益+研究開発費)」を確保することが具体的な目標です。しかしー昨年の「ステージ3」のスタートと同時に新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、患者の医療機関への受診抑制等による医療用医薬品市場の縮小等により、目標とする成長性、収益性を達成できる推移とはなっていません。この2023年3月期は、回復傾向にある市場のもと、新薬群の成長によって売上を伸長させ、必ずや成長トレンドへの転換を果たしたいと考えています。

2023年3月期は開発パイプラインの進展に伴い、研究開発費として前期比20億円増の109億円を予想していますが、年度内に新たな導入品を獲得した場合はさらに上振れる可能性があります。また医薬品の供給能力の増大を図るため、富山県高岡市に総投資額約100億円の新工場(高岡工場)の建設を決定し、2022年9月に着工する予定です。設備投資額は50億円を予定しており、その内、工場設備に係る費用は39億円を見込んでいます。

株主還元につきましては、毎年の薬価改定という事業環境の大きな変化のもとで、財務の健全性と成長投資とのバランスを勘案して、前期(2022年3月期)に配当額の

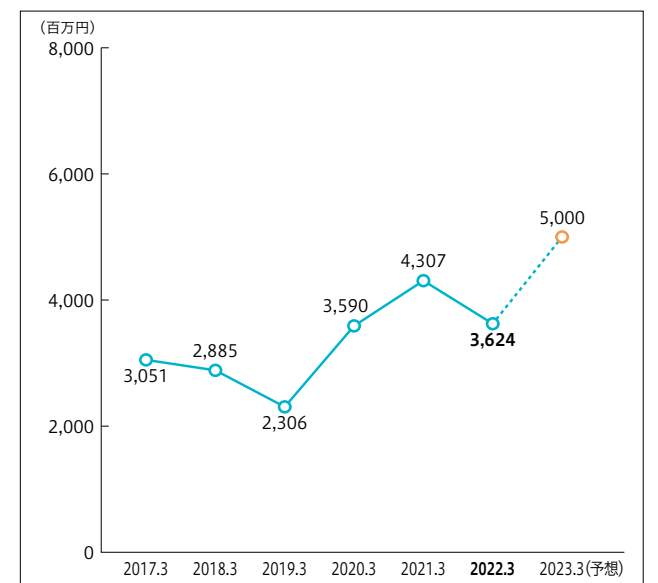
研究開発費(連結)



【研究開発費】

革新的新薬の創製を実現する創薬力を強化するとともに、中期的な成長を支える開発パイプラインの拡充を図るため、導入品の獲得に向けた積極的な投資を行っていきます。2023年3月期は開発パイプラインの進展により研究開発費の増加を見込みます。

設備投資額(連結)



【設備投資】

品質向上・安定供給に資する効率的な生産拠点の建設や創薬・研究開発設備の充実等、中長期的な事業基盤の構築に向けた設備投資を行っていきます。2022年9月には新たな生産拠点である高岡工場(総投資額約100億円)の着工を予定しています。